

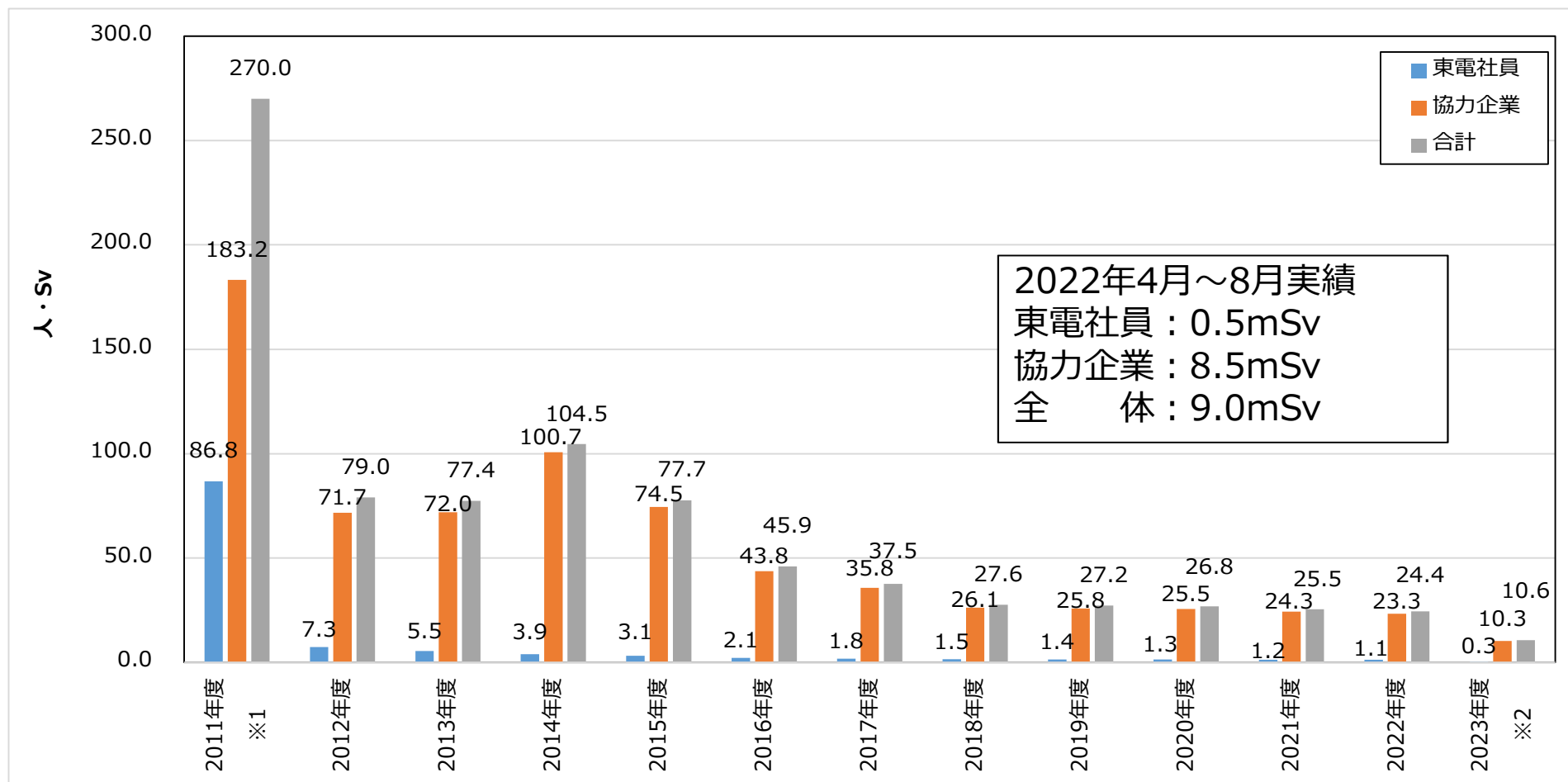
福島第一原子力発電所 従事者の被ばく線量全体概況について

2023年10月31日

東京電力ホールディングス株式会社

①発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況

■ 前年度の同時期と同程度となっている。

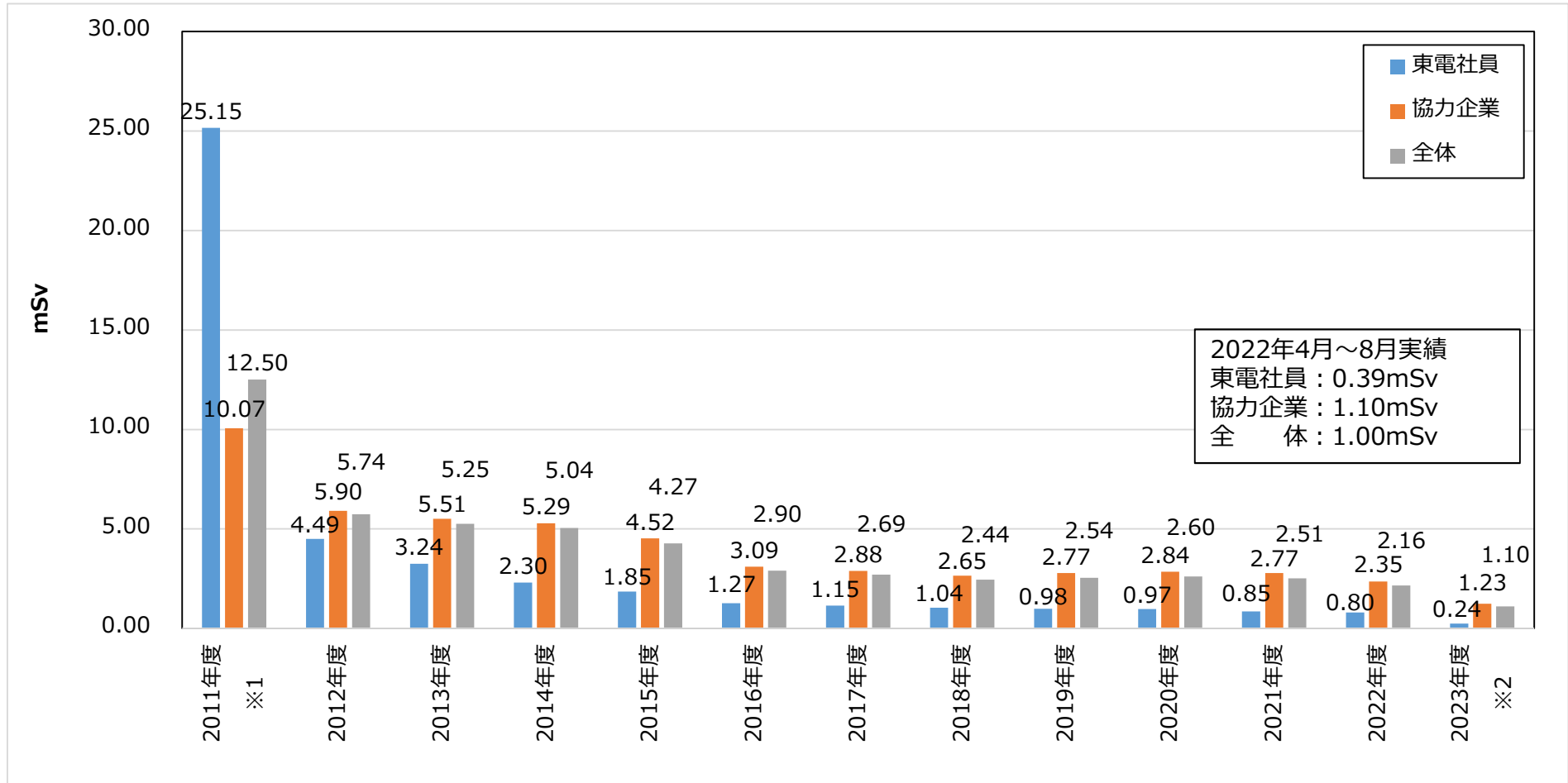


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2023年度は8月暫定値を含む

②発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（平均線量）

■ 前年度の同時期と同程度となっている。

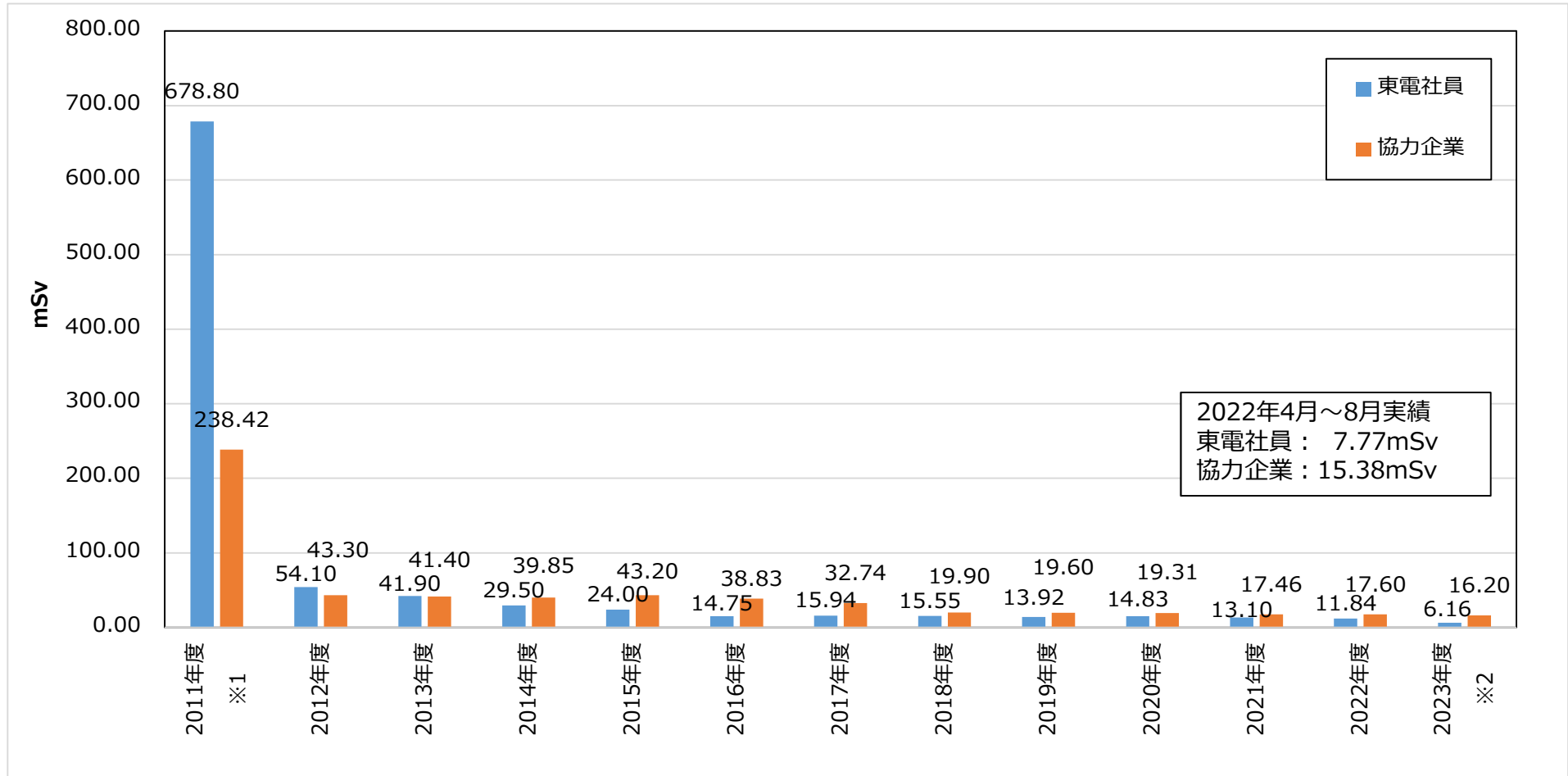


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2023年度は8月暫定値を含む

③発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（最大線量）

■ 前年度の同時期と同程度となっている。

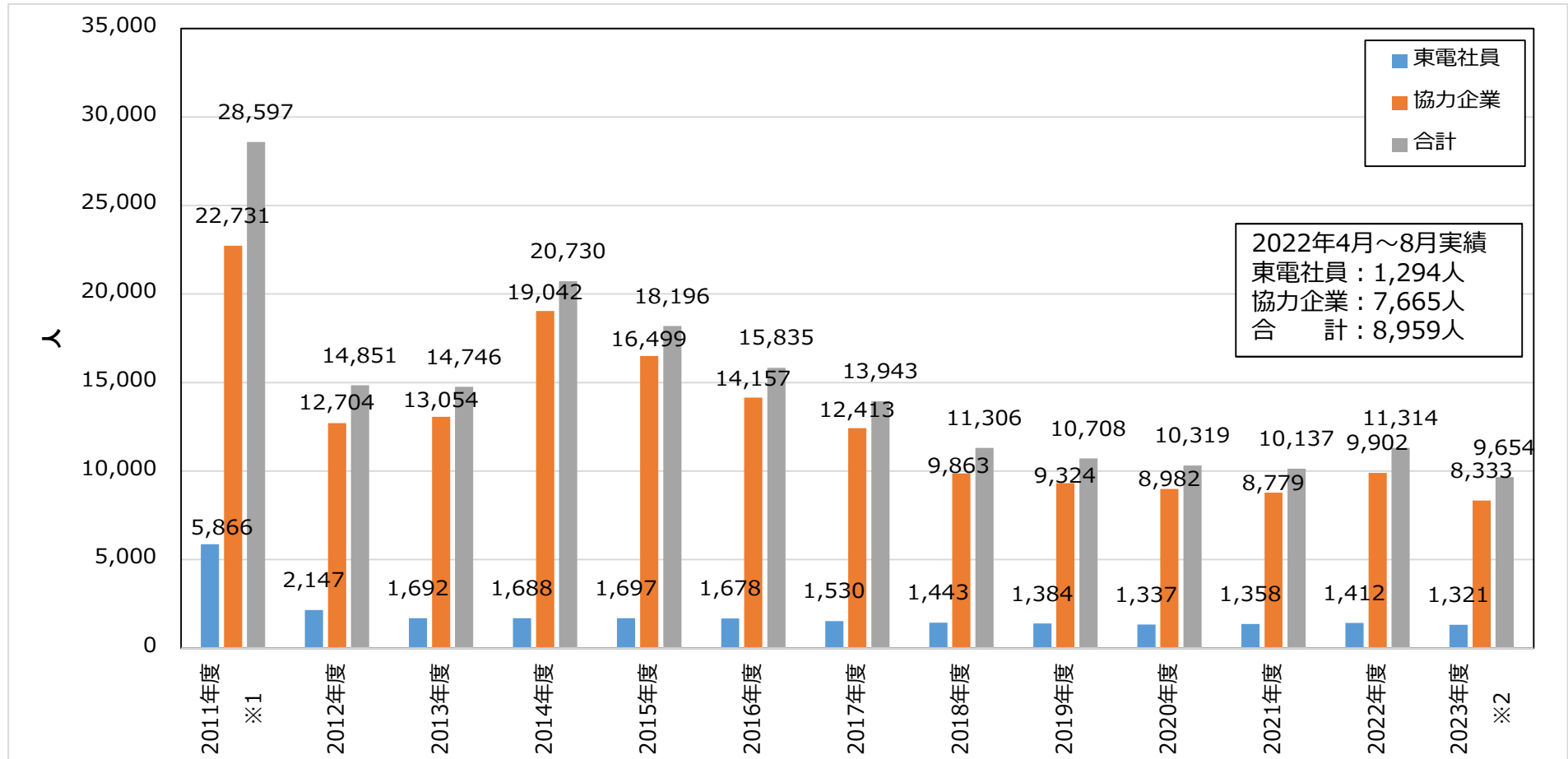


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2023年度は8月暫定値を含む

④ 発災以降の年度別放射線業務従事者数

■ 前年度の同時期と同程度となっている。



※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2023年度は8月暫定値を含む

⑤放射線業務従事者の累積外部被ばく線量 2023年度

区分(mSv)	2023.4月～2023.8月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0
10超え～20以下	0	163	163
5超え～10以下	2	551	553
1超え～5以下	86	1,428	1,514
1以下	1,233	6,191	7,424
計	1,321	8,333	9,654
最大(mSv)	6.16	16.20	16.20
平均(mSv)	0.24	1.23	1.10

○2023年度（2023.4月～2023.8月）に作業実績のある9,654人のうち

9,654人（100%）は50mSv以下

9,654人（100%）は20mSv以下

8,938人（92.6%）は5mSv以下

○全ての作業者について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。

○2011.10月以降、有意な内部取り込みは認められていない。

※2023年8月は暫定値を含む

⑥2021年4月1日を始期とする5年間の累積外部被ばく線量

区分(mSv)	2021.4月～2023.8月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	11	715	726
10超え～20以下	50	1,428	1,478
5超え～10以下	101	1,325	1,426
1超え～5以下	315	2,559	2,874
1以下	1,224	7,090	8,314
計	1,701	13,117	14,818
最大(mSv)	24.07	46.67	46.67
平均(mSv)	1.53	4.41	4.08

○2021.4～2023.8に作業実績のある14,818人のうち

14,818人 (100%) は100mSv以下

14,818人 (100%) は50mSv以下

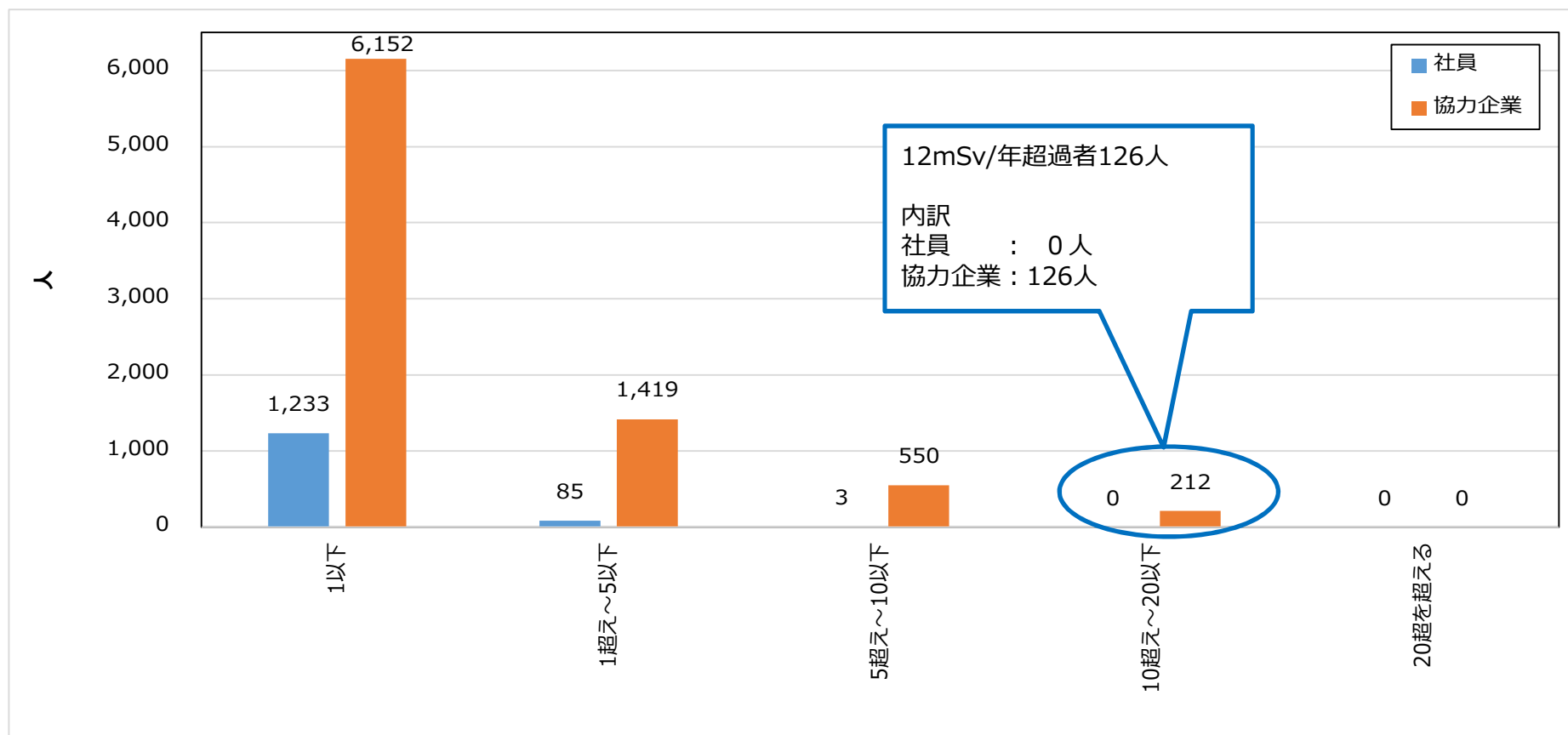
14,092人 (95.1%) は20mSv以下

○全ての作業者の被ばく線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。

※2023年8月は暫定値を含む

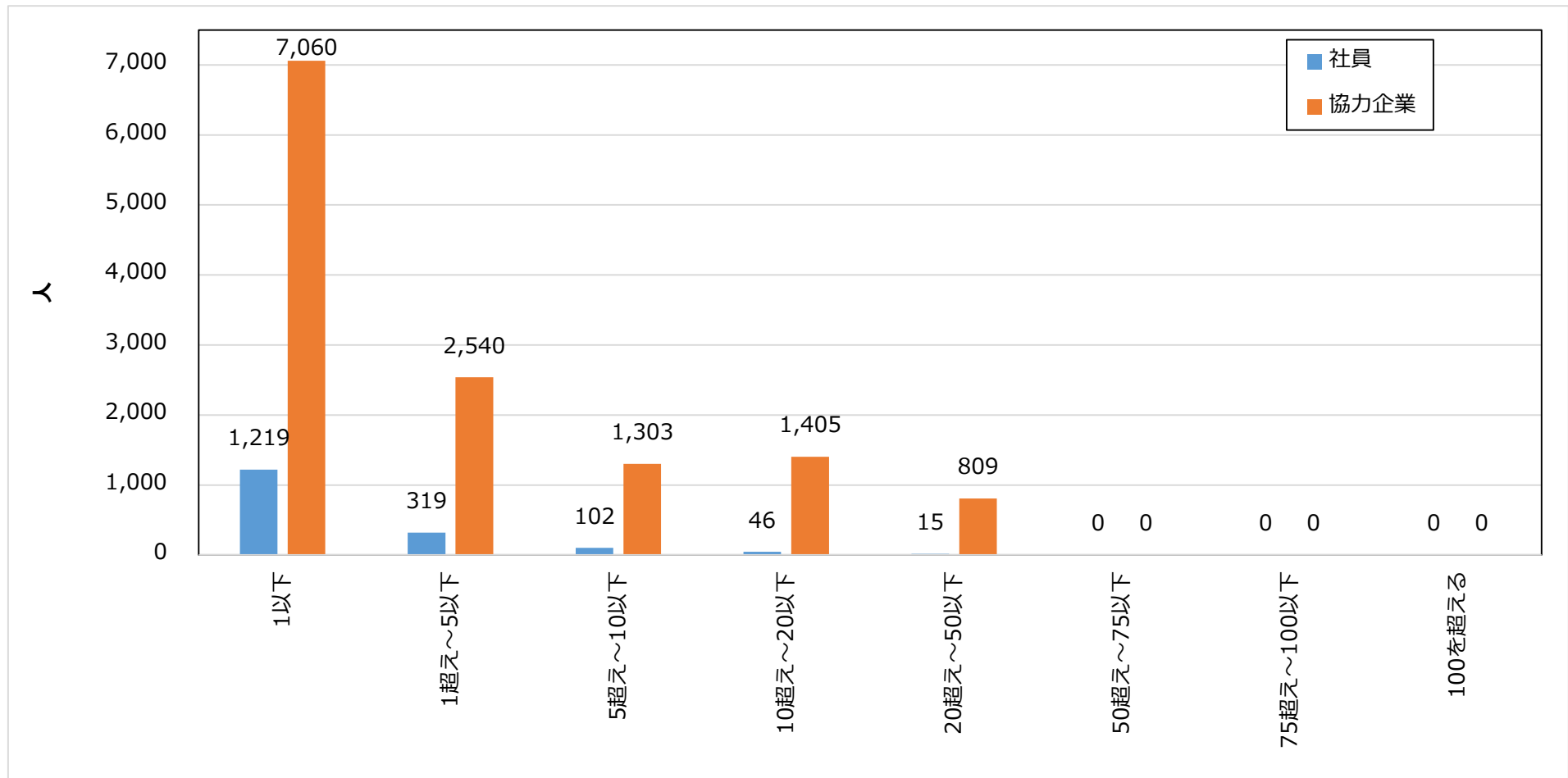
⑦眼の水晶体 累積等価線量分布（2023年度）

- 2023年度8月暫定時点の眼の水晶体の最大線量は、17.00mSv。
- 全ての作業者について眼の水晶体の等価線量は、線量限度内(50mSv/年)で管理。
- 眼の水晶体の等価線量が12mSv/年を超える作業を計画した段階、または超えたことが確認された段階で、眼の水晶体の等価線量を、眼の水晶体近傍（又は頭頸部）で測定を開始している。



⑧2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間の累積等価線量分布

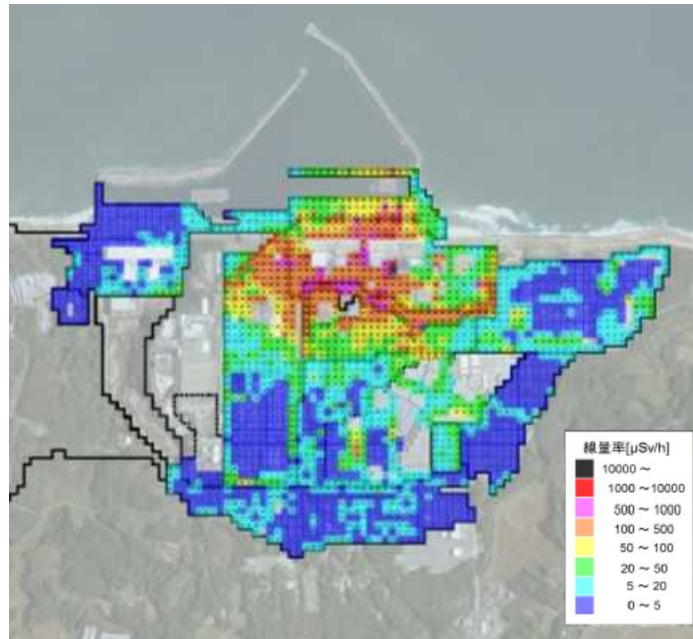
- 2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間累積等価線量の最大線量は、46.59mSv。
- 全ての作業者の眼の水晶体の等価線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。



⑨環境線量率の低下

- 構内の環境改善によって、構内全域にわたって環境線量率が低下している。
2023年度時点で、構内の約96%が全面マスク着用を不要とするエリアとなっている。

2014年度



※ 空白部分は未測定エリア

2023年度

